

うつほの杜学園小学校 言語ポリシー

(Language Policy)

1. 言語に関する理念 (Philosophy)

うつほの杜学園小学校(以下、本学)では、言語を「学びの道具」であり「多文化と自己理解・自己表現・思考力の源泉」であると捉えている。言語の円滑な運用を通じて、児童が多様な言語を通じて世界と地域、自然とつながり、自らの思考を深め、他者と共に創する力を育むことをめざしている。この理念は、「すべての教師が言語教育の責任を担う」という原則を体現するものである。

2. 言語の位置づけ (Language Profile)

- 主言語 (Language of Instruction) : 日本語を基盤とし、探究型学習の中心的な言語とする。
- 第二言語 (Additional Language) : 外国語を重点的に学び、一部の教科では英語およびバイリンガルでの指導を行う。
- 母語 (Mother Tongue) : 児童の多様な言語的背景を尊重し、必要に応じて母語使用を維持するための支援を行う。

3. 言語教育の実践 (Language Practices)

- 探究型学習との統合 : 言語教育はPYPの探究テーマと統合され、実生活に根ざした言語使用を促進する。
- 4技能のバランス : 聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく育成する。また、言語のもつ潜在的攻撃性を理解し、メディアリテラシーも重視する。
- バイリンガル教育 : 英語の授業に加え、一部の教科を英語およびバイリンガルで指導し、多言語環境を受容できる能力の涵養を実現する。
- 言語教育の個別支援 : 英語や日本語の習得に課題のある児童には、本人および保護者と相談のうえ、個別の教育支援計画や個別の学習支援計画を策定し、学習をサポートする。

4. 教職員の役割 (Roles and Responsibilities)

- 教員:すべての教員が言語教育の責任を担い、児童の言語発達を支援する。
- 言語コーディネーター:言語教育の計画・実施・評価を統括する者として言語コーディネーターを置き、教職員の研修を支援する。
- 保護者:家庭での言語環境を整え、学校と連携して児童の言語発達を支援する。

5. 言語評価 (Language Assessment)

言語評価は、児童の言語能力の発達を把握し、指導の改善に活用する。評価方法には、言語教員による観察、ポートフォリオ、自己評価、パフォーマンス課題などを含む。評価は、児童の言語的背景や習熟度を考慮し、公平かつ多様な方法で行う。

6. ポリシーの見直し (Policy Review)

本ポリシーは、年に一度、教職員・保護者・児童の代表による委員会で見直しを行い、必要に応じて改訂する。また、最新の教育研究の動向を参考にし、言語教育を継続的に向上させる。

制定 2025年8月20日